

【一】 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(設問に字数制限のある場合は、句読点や符号も一字と数えます。)

下の兄貴もわたしも、今では自分の部屋を持っている。兄妹三人がそれぞれひとりひとりの。

でも、最初からそうだったわけではなくて、上の兄貴がひとり部屋をもらったのは、五年になる春のことだった。

子ども部屋からひとりの部屋へ。その①引越しは、うららかな春の日曜日、家族総出で行われた。家族総出とは言っても、下の兄貴とわたしとはみんなのまわりをうるちよろしていただけだ。

②「ほんとうはね、中学になるまではコウちゃんも子ども部屋でって思ってたのよ。小学生のうちにはみんないっしょになって」

収まっていた本をいったんすべて抜き出して、空になった本棚をあたらしい雑巾で拭きながら、母親が A 言った。

「大丈夫だよ。ぼく、さびしくなんかないから」

上の兄貴は笑いながらそう言い、その言葉に父親も、

「まったくママときたら、浩一が地の果てに行くみたいだ」

と、笑った。

そのとき、

【I】 と、下の兄貴が話に割ってはいった。

【II】

発言は③渡りに船だったはずだ。それなのにまあ白々しいったら。大人は平気で子どもを騙すんだ。

父親と上の兄貴とで机を運び、本棚を運び、母親と下の兄貴とわたしとで本棚から取り出した本を運び、そして上の兄貴が元通りに本を並べ終えて引越しは完了した。

その部屋は、子ども部屋と廊下をはさんで向かいの部屋だった。お客さん用の畳敷きの六畳間をフローリングにして壁紙を張り替えた部屋は、それまでとまるで違って見えた。張られたばかりの木の床から新築の家の匂いがした。

その日から上の兄貴は自分の部屋で、下の兄貴とわたしは子ども部屋でという割り振りになった。

④引越しが済んだばかりの六畳間に家族五人でいると、なんだかみんなでお客さんに来たみたいだった。上の兄貴が主人でほかの四人がお客さんというのがほんとうのところだけど、上の兄貴もやっぱりお客さんみたいだった。もしかするといちばんお客さんみたいだったのが上の兄貴だったかもしれない。

父親の傍らに立って、母親は言った。

【III】 ⑤ジュンも亜実も五年生になったらじぶんのお部屋をあげるからね

【IV】

下の兄貴が飛び跳ねた。

でもわたしは、全然実感がなかった。五年生になるなんて、幼稚園児のわたしからすれば、ずっとずっと先のことのように思えた。もっとと言

「亜実も。亜実もさびしくないからね」
わたしも負けずに言った。

「亜実なんて、夜、ママと寝てるじゃないか。亜実はママがいなきゃ寝られないんだからね。」
【III】。うそつき、亜実のうそつき」

下の兄貴が勝ち誇ったみたいに言う。そんなとき、下の兄貴の声はいつもより高くなっていきいした。

子ども部屋と呼ばれるその部屋は、十畳ちょっとの広さがあって、家のなかでいちばん広かった。そこにはふたつの勉強机と本棚と二段ベッドがあった。二段ベッドはふたりの兄のためのもので、わたしはまだ母親といっしょに寝ていた。

子ども部屋には、折りたたみのコバルトブルーの丸テーブルがあった。亜実ちゃんのテーブル。机を持たないわたしはこのテーブルで、お絵かきやレゴブロックをして遊んだ。そういえば、女の子定番のお人形さんごっこ、ほとんどしなかったなあ。

「亜実、ママといっしょじゃなくても寝れるもん。ほんとに寝れるんだから」

ムキになってわたしは B した。

「じゃあ亜実がこんどからここで寝るかい？ ママがいなくても大丈夫かなあ。泣くかなあ」

父親はたった今思いついたというように言った。でもあれは後から考えると、もう決まっていたことだったな、完全に。

父親にしてみれば、下の兄貴の「ママがいなくちゃ亜実は寝られない」

えば、それは永遠に來ないのと同じくらい先のことみたいだった。

(石井睦美『兄妹パズル』による。)

問1 この物語はいつの出来事について書かれていますか。文中から五字で書きぬきなさい。

問2 ①引越しとありますが、具体的にどうすることですか。次の文の a・b にあてはまる最も適切なことばを、文中から指定の字数で探し、それぞれ書きぬきなさい。

a (四字) が b (十四字) 移動すること。

問3 ②「ほんとうはね、小学生のうちにはみんないっしょになって」とありますが、この言葉は父親にはどのように聞こえていますか。次の文の [] にあてはまる最も適切なたとえを用いたことばを、文中から指定の字数で探し、書きぬきなさい。

上の兄貴が [十字] に聞こえた。

問4 **A** にあてはまることばとして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア さらりと
- イ ぼつりと
- ウ ぼたりと
- エ こそっと

問5 **I** ～ **IV** にあてはまるセリフとして最も適切なものを、それぞれ次のア～オの中から一つずつ選び、その記号を書きなさい。

- ア やったあ
- イ あのね
- ウ ぼくはさびしいよ
- エ さびしくないなんて、うそだからね
- オ ぼくもさびしくないからね

問6 **B** にあてはまることばとして最も適切なものを、次のア～オの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 反論
- イ 反対
- ウ 対抗
- エ 賛成

新しい部屋になじんでいない、部屋の主人である上の兄こそが

c (七字) に見える部屋。

問9 ⑤ ジュンも亜実も五年生になったらじぶんのお部屋をあげるからねとありますが、このときのジュンと亜実の気持ちの説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア ジュンはずっと一人部屋にあこがれていたのうれしさを表に出しているが、亜実は、いまだに一人で寝ることができるかどうかもわからない状況なので、不安な気持ち。
- イ ジュンは、五年生がまだ先のことなので待ちきれず、今すぐ一人部屋がほしいと不満そうであるが、亜実は、五年生というずっと先の未来の言葉にうきうきする気持ち。
- ウ ジュンは、五年生になったらという言葉にうれしさがこみ上げているが、亜実は、まだ幼稚園児なので実感がわかず、喜んでいいのか悲しんでいいのかすらわからない気持ち。
- エ ジュンは一人部屋を喜んでるように見せかけながら、本当はさびしさを抱えているが、亜実は、ママとはなれる決意ができたので、一人部屋になる日を待ち遠しく思う気持ち。

問7 ③ 渡りに船だったはずだとありますが、それはなぜですか。その理由として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 子ども部屋が三人の部屋から二人の部屋に変わることをつけに、母親も子ども部屋で寝る予定であったが、亜実が一人で寝ると言い張るので、母親が子ども部屋で寝られなくなったから。
- イ 浩一を一人部屋にすることをきっかけに、子ども部屋で寝るようには、ジュンも自立させるために一人部屋に変更したが、最終的には、ジュンも一人部屋にして、亜実を母親と二人で寝かせるつもりだったから。
- エ 浩一を一人部屋にして、亜実と母親、ジュンと父親がそれぞれ同じ部屋で寝るつもりだったが、亜実が母親をつき放すので、母親がさみしがってしまうから。

問8 ④ 引越しが済んだばかりの六畳間とありますが、それはどのような部屋ですか。次の文の **a** ～ **c** にあてはまる最も適切なことばを、文中から指定の字数で探し、それぞれ書きぬきなさい。

今までの **a** (五字) の部屋とは **b** (六字) 見える、まだ

問10 この物語の登場人物の性格としてあてはまらないものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 上の兄は、予定より早く一人部屋にしてしまったことで心配そうにする母親をいたわれる、思いやりのある人物。
- イ 下の兄は、素直に自分の気持ちを表に出すためか、妹に対しては、悪びれずに傲慢な態度をとる人物。
- ウ 亜実は、下の兄と競い合う気持ちが強く、ばかにされても、向かっていく、負けん気の強い人物。
- エ 父親は、自分の都合さえ良ければ、子どもを利用して平気で子どもを騙すような、卑怯な人物。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(設問に字数制限のある場合は、句読点や符号も一字と数えます。)なお、(※)は作問者の注です。

「このままだとみなさん、プラスチックの屑がまじった魚を食べることになりますよ。もう食べているかもしれない」と東京農工大学の高田秀重教授は言う。

高田さんが主宰する水環境保全学/有機地球化学研究室では、環境中で見つかる残留性の高い人工物質について幅広く研究を展開しており、それらの中でよくが最初に強く印象づけられたのが、①まさにこの話題だった。

高田さんたちが、二〇一五年、②東京湾の埠頭で釣ったカタクチイワシ(※近海産のイワシ。食用で、カツオ釣りの生き餌としても重要)を調べたところ、八割の消化管の中から、様々なプラスチック片が出てきたというのである。もちろん、魚の消化管は、普通は食べずに捨てるわけだが、何かの拍子に口に入ってしまうこともあるかもしれない。いや、小さな魚だと内臓を抜かないまま揚げることもあるし、サンマの塩焼きのようにワタの苦味をむしろ楽しんで食べることもある。とすると、やっぱり食べてしまっているかも……。

考えるだにシヨッキングだ。高田さんの淡々とした穏やかな口調ゆえに、逆にリアリティが増した。

「釣ったものをさばいて胃腸を取り出して、アルカリ(※石けんの成分)の作用が進んでいきます。さらに海岸にプラスチックが落ちていると、紫外線が当たるだけでなく、海岸の砂浜も熱をもちますので、それによってポロポロになる速さがどんどん加速されていくんです。ちなみに、一枚のレジ袋から、数千個のマイクロプラスチックができると言われています」

洗濯バサミにしても、レジ袋にしても、ペットボトルにしても、長期間、紫外線に当たって、なおかつ高温にさらされるとポロポロになる。

A、風に飛ばされたレジ袋がそのまま川に落ちて流れていったとしたら、そこからは数千個のマイクロプラスチックが発生しうるのでという。これまで考えたこともなかった。

さらに、海に流れたプラスチックゴミを砂浜に集めて、効率的にポロポロにしようという仕組みが自然界にある。

「海に浮いているゴミって、大きいうちは砂浜に打ち上げられる法則があるんです。そして、小さくなると、今度は沖合に出て行きます。専門的には、ストークスドリフトって言います。B、大きい破片が砂浜に打ち上げられて、そこでポロポロになって小さくなると、今度は海に戻っていくわけです。小さくなって海に行ってしまうともう回収するのはほとんど不可能です。プランクトンネットで海じゅうをすくわなければならなりませんから」

プラスチックとは、当たり前だが、一種類ではない。もともと「可塑性(※外力により形を変えられても、そのまま残る性質)がある」というのが「plastics」の原義で、熱を加えて自由な形にできる合成樹脂の

でもある。あぶらを分解する性質をもつ)に漬けて一週間もすると、中のプラスチックだけが残って浮いてくるんです。それを分析機械で確認したところ、ポリエチレンとかポリプロピレン、それも、大きさにすると一ミリ前後のものが多くあると分かりました」

ここで見つかったプラスチック片は、近年、「③マイクロプラスチック」として問題視されるようになったものだ。国連の海洋汚染の専門家会議の定義では、「大きさが五ミリ以下のプラスチック」である。もちろん人間が環境中に放出したプラスチックに由来するもので、高田さんは、世界的にも早くから研究を続けてきた功労者の一人だ。★

さて、それでは、カタクチイワシの消化管から見つかったマイクロプラスチックはどういうルートでここまで来たのか。東京湾の話だから、東京、千葉、神奈川など、東京湾に面した地域から出たものはずだが、こういった地域では、基本的にはプラスチックゴミは、収集・処理されているはず。ポイ捨てされたものだけで、④八割のカタクチイワシに行きわたるものなのだろうか。いや、そもそも、どうやってたらこんなに小さく揃ったプラスチック片ができるのだろうか。

「よく説明するのに使うのはこういうものです」

高田さんは、色あせた古いプラスチックの塊を差し出した。見慣れた⑤洗濯バサミだ。でも、指でつまむ部分が壊れてしまっている。

例えば、洗濯バサミも、外で一年も使っているとポキッと折れやすくなりますよね。陽の光にさらされて、紫外線の力でこうやって壊れてしまふ。海の表面でも、やはり日の光はずっと当たっていますので、壊れ

ことを指すようになった。今しばらくが日本語で「プラスチック」と呼んでいるものの中には、ポリエチレン(レジ袋や、ラップ、容器など)、ポリプロピレン(耐熱容器や玩具など)、ポリスチレン(発泡スチロールなど)、ポリ塩化ビニル(多岐にわたる用途。塩ビパイプなどがよく知られる)、PET(ペットボトルなど)などが含まれる。総称としては、むしろCとした方がよいのかもしれないが、ここでは日常用語としての「プラスチック」で通す。

さて、プラスチックの多くは、最初、海面近くを浮遊する。特に生産量が多い、ポリエチレンとポリプロピレンは水よりも軽いため、小さくなくても浮いている。カタクチイワシは、プランクトン食だから、それを間違えて食べてしまうのだろう。D、最近ではプランクトンそのものがマイクロプラスチックを取り込んでしまう事例の報告もある。で、「マイクロプラスチック入りプランクトン」を食べた可能性もある。そして、こういったカタクチイワシや、「カタクチイワシを食べた魚」が、ぼくたちの食卓に上がるとする。⑥結局、ぼくたちが環境中に出してしまったものが、まわりまわって自らのもとへと返ってきてしまうのである。

「我々はEする者であり、Fされる者でもあります」というふうな高田さんは表現した。

(川端裕人「科学の最前線を切りひらく!」による。)

問1 ①まさにこの話題 とありますが、それはどのような話題ですか。次の文の **a** **c** にあてはまる最も適切なことばを、文中から指定の字数で探し、それぞれ書きぬきなさい。

a (七字) が **b** (三字) にたまった魚を、私たちがすでに **c** (九字) かもしれないという話題。

問2 ②東京湾の埠頭で釣ったカタクチイワシを調べた とありますが、その結果を述べている部分を文中から四十七字で探し、その最初と最後の五字を書きぬきなさい。

問3 ③マイクロプラスチック とありますが、それはどのようなプラスチックですか。次の文の **a** **c** にあてはまる最も適切なことばを、★よりも前の文中から指定の字数で探し、それぞれ書きぬきなさい。

a (十一字) ことに由来する、大きさが **b** (五字) で **c** (六字) プラスチック。

問4 ④「八割のカタクチイワシ」に行きわたる とありますが、マイクロプラスチックはどのようにしてカタクチイワシに取り込まれたのですか。最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号

問6 **A** ・ **B** ・ **D** にあてはまることばの組み合わせとして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア A このように B しかし D あるいは
- イ A 例えば B つまり D あるいは
- ウ A 例えば B しかし D そのうえ
- エ A このように B つまり D そのうえ

問7 **C** にあてはまることばを文中から四字で探し、書きぬきなさい。

問8 ⑥結局、ぼくたちが環境中に出してしまったものが、まわりまわって自らのもとへと返ってきてしまう とありますが、それはどういうことですか。最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 人間が自然界に放出したゴミによって、人間が害を受けること。
- イ 人間の作った素材のせいで、自然界がダメージを受けること。
- ウ 魚がプランクトンを食べないようにすることが大切だということ。
- エ 魚のために上質なエサを生み出さなければいけないということ。

を書きなさい。

ア カタクチイワシが、海の流れによって細くなったマイクロプラスチックを好んで食べたり、マイクロプラスチックを食べたプランクトンを好んで食べたりすること。

イ カタクチイワシが、様々な種類のプランクトンを食べるうちに、マイクロプラスチックをエサとしているプランクトンからマイクロプラスチックを取り込むこと。

ウ カタクチイワシが、海面に浮遊するプラスチックゴミを食べ、胃腸で細かくされたものが残ったり、マイクロプラスチックをため込んだプランクトンを食べたりすること。

エ カタクチイワシが、海面近くを浮遊するマイクロプラスチック自体をプランクトンと間違えて食べたり、マイクロプラスチックを取り込んだプランクトンを食べたりすること。

問5 ⑤洗濯バサミ とありますが、高田さんはこれを何の例としてとりあげていますか。次の文の **□** にあてはまる最も適切なことばを、文中から指定の字数で探し、書きぬきなさい。

□ (十二字) いるうちに、プラスチックはポロポロになっていくという例。

問9 **E** ・ **F** には、同じ二字熟語が入ります。あてはまる熟語を文中から探し、書きぬきなさい。

問10 本文の内容と合っていないものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア ストリークスドリフトという現象によって、海に流れた大きなゴミは、砂浜に打ち上げられ、小さくなると沖合に流れる。
- イ 海にただよう小さなプラスチックは、ネットですくって回収すれば、マイクロプラスチックになるのを防げる。
- ウ プラスチックの多くは、水よりも軽いため、小さくなくても海面近くに浮いている。
- エ 海岸のゴミは、太陽からの熱と、温まった砂浜の熱によって急速に壊れ、多くのマイクロプラスチックを作り出してしまふ。

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(設問に字数制限のある場合は、句読点や符号も一字と数えます。)なお、著者の長嶋有氏は埼玉県出身です。

俳人には俳号というのがある。俳句をするとき用のペンネームだ。夏目漱石の漱石とはもともと正岡子規の俳号だった(俳句誌に小説でも書いたら、と子規に勧められて『吾輩は猫である』を書いたのだ)。俳句をする人は絶対に俳号をつけなければいけないわけではない。別に本名でやってもいいんだが、1990年代当時、俳句を始めた仲間同士の間に「なんとなくつけるものらしい」「つけた方が楽しいぞ」というノリがあって、僕もつけた。

しばらくその俳号で活動していて、公式サイトでも俳句の活動はその名義で告知していた。

あることがあって、2008年に俳号をやめた。だが、ウィキペディアなどに載っているせいか、取材の際に「たしか俳号は〇〇という名前で活動されてるんですね」と言われ続ける(ウィキペディアの情報は正確もしくは古いものである場合がある)。

「なぜ俳号をやめたんですか」という質問をされることも結構あるが、それも「本当にそんなに聞きたい質問なの?」と内心①いぶかしく思う。「〇〇の名前での活動が大好きだったのに」みたいな前段は特に感じられないのだが。本稿では、繰り返される質問の答えのかわりとして、僕がなぜ俳号を名乗らなくなったのかを語りたい。

句会の後は必ず酒宴になる。酒を飲みながら話すようになると紫黄さんはとても優しい、ダンディな人で、すぐに大好きになった。「湯豆腐や真つ暗な部屋両隣」「④春雨や音楽は木の校舎より」など、彼の俳句も素晴らしかった(なんと⑤軽やかな)。何度目かの句会の際(もう特選など到底もらえなかったがドヤされないので分かったのでこっちは楽ちに接していた。俳句は一句でも認められたらその人、その場からずっと認めてもらえることを僕はもう経験で知っていた。多くの人に対する「その一句」を、俳人は常に作るのだ)、いつも以上に機嫌良く酔った紫黄さんは僕に初めてからんできた。「あなたの、〇〇という俳号、あれは良くない!」と。「え、そうですか?」でも、もう十年以上も名乗ってるのよ」仲間の俳人が僕のかわりについてくれたが、紫黄さんは「〇〇という俳号、あれは良くない!」とだけ何度も(酔ってる人特有のそれっで)繰り返した。

その夏に紫黄さんは亡くなった。大正十年生まれと思えない、しっかりとした背筋で座り、歩く人だったが、たぶん熱中症だったろう。〇〇という俳号がよくないのはなぜかを聞きそびれたが、最後に会った夜の言葉だから、これは遺言だと思った。それをするのに「なぜなのか」を知る必要がないこともある。

それで僕は〇〇と名乗るのをやめた、というわけだ。

今、僕はツイッター上で句会を啓蒙している。ツイッターは文字制限のあるツールなので、便宜上、参加者に「一文字の」俳号を持ってもらうことにしている。一文字で名を言い合うのは楽しい。深い意味などな

07年、俳人の山本紫黄と句座を共にした……今、「句座を共に」なんて格好よくいってみたが、単に「一緒に句会をした」ということだ。(後述もするが)そういう「言い方」で格好よくみせる感じや、そのための(?)言葉が俳句の世界には良くも悪くもたくさんある。

高円寺の狭い喫茶店を貸し切った小規模な句会で、年長のコワモテが集まるとは聞いていたが、早くから来て、びしっとスーツ姿で寡黙に座り続ける紫黄さんは、目つきがとりわけ怖そうだった(実にいい古び方のオメガが袖から覗いていた)。

(あの、怖い人の隣になりませんように)と思っていたら隣になってしまった。肩を常にすぼめて(②ぶつからないように↑俳句の内容で気をつけるべきところなのに、間違っている)恐縮しながら句会が始まった。

僕はそのとき「サンダルで走るの大変夏の星」「水筒の麦茶を家で飲んでおり」という句をだした。なんとというか、自分でいうのもなんだがバカみたいな句だ。特にサンダル。だが、そういう軽い俳句でこれまでやってきたのだ。ことによってはドヤされるかもと思った。「なんですか、これは」そういう失笑や呆れだったらまだマシだ(そういう反応も慣れる)。「へへへ、スミマセンいつもこんな句なんですヨ」と頭をかいてやり過ごす(気持ちの)準備だけしておいた。

その、コワモテの紫黄さんが、なんとサンダルの句を特選(最高点)に選んだのだ!

③口を極め、麦茶もあわせて二句とも褒めて下さった。ファー(緊張はどかれる音)!

い名前を付けて、それで全然事足りるじゃん、とも思った。

(長嶋有『俳句は入門できる』による。)

問1 ①いぶかしく の使い方として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア 渾身の手料理をほめるそのほほえみを心からいぶかしく思う。
- イ 妹の屈託のない笑顔に、自分もいぶかしい思いがあふれる。
- ウ 連続続きのチームに、いぶかしい思いで必死に勝利祈願をする。
- エ いつもは見せることのない彼のやさしさをいぶかしく思う。

問2 ②ぶつからない の「ない」と同じ働きをしていることばを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア このことはだれにも言わない。
- イ ぼくにはそんな勇氣はない。
- ウ 今日はいつもほど寒くない。
- エ 賛成より反対の方が少ない。

問3 ③口を極め と同じ意味の慣用句を、次のア～エの中から一つ選
び、その記号を書きなさい。

- ア 口を合わせ
- イ 言葉を尽くし
- ウ 心にささり
- エ 息をはずませ

問4 ④春雨 と同じ組み立ての熟語を、次のア～エの中から一つ選
び、その記号を書きなさい。

- ア 暖流
- イ 禁止
- ウ 作文
- エ 国立

問5 ⑤軽やかな と同じ品詞の言葉を、次のア～エの中から一つ選
び、その記号を書きなさい。

- ア 褒めて
- イ 優しい
- ウ 静かだ
- エ 初めて

- ④ 休日の朝は、父のおだやかな読書の時間だ。
- ⑤ 今まで、彼は、うつつむいたままで、何を考えていたの
だろう。

四

次の問いに答えなさい。

問1 次の①～⑤の文の主語と述語の関係は、あとのア～ウのどれにあ
てはまりますか。それぞれ記号を書きなさい。ただし、同じ記号を何
回使ってもかまいません。

- ① 今年も川風に吹かれる薄桃色の桜並木が美しい。
- ② 彼は思い出をたどって、なつかしい町を散策した。
- ③ これは祖父が生前買ってくれたネックレスだ。
- ④ 弟は中学からラグビーを始めようと息巻いている。
- ⑤ 去年の体育祭の騎馬戦は、とてもすばらしかった。

- ア わたしは黄色い花のバラを植えている。
- イ わたしが植えているのは黄色い花のバラだ。
- ウ わたしが植えているバラの花は黄色い。

問2 次の①～⑤の文の——線の語がかかることばを、ア～エの中
から一つずつ選び、それぞれ記号を書きなさい。

- ① 兄は、学校から帰るといつもサイダーを飲む。
- ② 今年からわたしは、犬の散歩の担当を任される。
- ③ 友人が、わたしにくれた本を、姉にもすすめた。

五

次の①～⑤のことわざの意味になるように、あとのA・Bのことは
を組み合わせて完成させ、それぞれ記号を書きなさい。(ただし、同
じ記号はそれぞれ一度しか使ってはいけません。)

- ① あぶはち取らず
- ② どんぐりの背比べ
- ③ 能ある鷹は爪を隠す
- ④ 痛くもない腹を探られる
- ⑤ 焼け石に水

- A 本当にすぐれた実力を持つ人は
- イ どれも似通っていて
- ウ 悪いことはしていないのに
- エ わずかばかりの助けや努力では
- オ 二つのものを欲深く手に入れようとすると
- B ア あれこれと疑いをかけられること
- イ かえってどちらも失敗すること
- ウ 特にすぐれたものがないこと
- エ むやみにひけらかしたりしない
- オ 何も効果があがらないこと

六

次の①～⑩の文の——線部について、漢字は読みをひらがなで、カタカナは漢字に直して書きなさい。

- ① 台風たいふうに備そなえて雨戸あまどを閉とめる。
- ② 公演こうえんは来月らいげつに延の期ぎされる。
- ③ 待望たいぼうの赤あかちゃんちゃんが産うまれる。
- ④ 快かいい風かぜがふふきぬぬける。
- ⑤ 親おやの口調くちうをままねねる。
- ⑥ 両国りやうこくの間まにはミミッッセセツツな関かん係けいがある。
- ⑦ 約やく束そくの時間じかんをゲゲンンシシュュする。
- ⑧ 道みち路ろのフフッッキキュュウウ工こう事じを急いそぐ。
- ⑨ 両親りやうしんの生いき方かたをトトウウトトぶ。
- ⑩ 挑ちやく戦せん者しゃをシシリリゾゾククて勝かつ。

【この問題は終わりです】

